

勢田川とは

勢田川は伊勢市の中心部を南西から北東に流れる延長 7.3 km の都市河川である。市街地のすぐそばの森から湧き出した水は、市街地を抜け五十鈴川に合流し伊勢湾に注ぐ。勢田川と人々の暮らしの関わりは古く、かつては伊勢神宮へ献上するための魚を取る川であった。また、伊勢参りや物資輸送の舟運にも使われ、河港は人と物資の結節点として賑わった。戦後、高度経済成長期、人々の生活様式の変化に伴い流入する生活排水の質も変化し水質汚濁が進んだ。

下水道整備のきっかけは五十鈴川の浄化

「三重県は下水道整備が遅れ、現在も普及率は 49.9% と全国平均より 77.6% に比べると低い状況です。伊勢市でも着手が遅く、最初に供用開始したのは平成 11 年からです」と話すのは伊勢市の倉野下水道建設課長。伊勢市で下水道整備が始まったきっかけは、内宮より下流での汚水流入により、五十鈴川の汚濁が進んだことである。

勢田川と下水道

「子供の頃、悪いことをすると『勢田川に放り込むぞ』と叱られました。勢田川はそれくらい汚れていました」こう話すのは伊勢市の山本環境対策係長だ。「勢田川については、1999（平成 11）年より流域関連伊勢市公共下水道事業を開始しました。その結果、変動はあるものの水質は確実に改善しています。当市では公共下水道と合併処理浄化槽を併用することで汚水処理をすることにしています。平成 27 年度末時点での、合併処理浄化槽も含めた水洗化率は 70.8% です」と倉野さん。

水環境について自ら学ぶ市民

行政、企業の代表者と市民 19 名で運営される『伊勢市環境会議』が中心となり、勢田川や周辺の水環境保全活動に取り組んでいる。「数千名の市民が参加する『勢田川七夕大そうじ』、川の浄化設備である『勢田川とおりゃん瀬』、川沿いにキャンドルを並べる『100 万人のキャンドルナイト伊勢』などを多くのイベントを実施しています」と説明するのは、伊勢市の松岡環境対策係だ。「勢田川を何とかしなければと考える人が多くいます。市民が進んで水環境、そして下水道や浄化槽について学び理解を深めています」と松岡さんの説明に力が入る。

勢田川を訪ねる

最初に河口、五十鈴川との合流点付近を訪ねる。そこには、水門と勢田川排水機場がある。1974（昭和 49）の「七夕水害」を受けて整備されたものである。今度は上流へ。ところどころで下水道の敷設工事が進んでいる。排水が流れ込むあたりでは、陽の光にあたり水面が黒く光っている。最上流は神宮の森に連なる森林の入り口で、水が湧きだしている。五十鈴川に神聖なものを感じるように、この湧水にも神聖さを感じる。しかし、この湧水は人々の暮らしから流れ出る汚水を引き受け、伊勢湾に注ぐころにはすっかり汚れてしまう。「川が抱えている矛盾…それは、私たちの生活を象徴しているように思います」。川がその時々暮らしの一端を映し出していることに気付いた人々は、下水道や浄化槽にも関心を向け、日常の暮らしの中に、神話世界から湧き出る清流を取り戻そうとしている。



左から河港の面影を伝える茶屋、市民が設置した浄化設備『勢田川とおりゃん瀬』案内版、水源付近の森林